平成２８年１０月２４日

６年生の保護者各位

あま市立伊福小学校長
服　部　泰　憲

平成２８年度全国学力・学習状況調査の結果及び取り組みについて

保護者の皆様には、日頃より本校の教育活動にご理解とご協力をいただきありがとうございます。さて、今年４月１９日に行いました「全国学力・学習状況調査」の結果につきましては、去る９月３０日に個人票を配布させていただきました。本校では、その結果を受け、校内検討委員会を設置し、本校児童の学力や学習状況について分析してまいりました。その概要を下記のように報告させていただきます。この結果を、学習活動並びに学校生活全般を見直す参考とし、これからの教育活動に役立てていきたいと考えています。

記

１　分析の方針

文部科学省及び愛知県教育委員会は、結果の公表については、『序列化や過度な競争にならないようにするため提供された平均値等の数値そのものは公表しない』という方針をとっています。

本校もその方針の下、学校全体の傾向を国・県の状況をふまえて分析しました。

２　全体の概況

○　全体の傾向
- 　正答率については、国語Ａは県平均・全国平均を上回りましたが、国語Ｂ・算数Ａ・算数Ｂは全国・県平均を若干下回る結果となりました。

○　調査ごとの正答数の分布の傾向（全国・県と比較して）
- 　国語Ａ…上位と中位の者が多くなっています。
- 　国語Ｂ…上位の者が少なく中位・下位の者が多くなっています。
- 　算数Ａ…上位・下位の者が若干多く、中位の者は県平均・全国平均とほぼ同じ傾向が見られます。
- 　算数Ｂ…上位・中位の者が少なく、下位の者が多くなっています。

３　「国語に関する調査」の結果から

国語Ａでは、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する能力」が県平均・全国平均を上回り、「話す・聞く能力」「読む能力」が県平均・全国平均を下回りました。「書く能力」は、県平均を上回りました。漢字の読み書きの問題については「快晴」「貯金」などの「読み」より「親しい」「相談する」などの「書き」の苦手な児童が多いことが浮かび上がりました。全学年で引き続き粘り強く漢字練習に取り組ませたいと考えています。

国語Ｂでは、「早ね早起き」活動の報告文で課題を取り上げた効果として適切なものを選択する「書く能力」に関する問題や、「パン職人」に関する複数の資料の内容を関係づけたものとして適切なものを選択する「読む能力」に関する問題が苦手な児童が若干多いことが浮かび上がりました。

４　「算数に関する調査」の結果から

算数Ａでは、「数量や図形についての知識理解」領域において県平均と全国平均を上回りました。「数と計算についての知識理解」領域においては県平均とほぼ同じ結果でした。

算数Ｂでは、「図形についての技能」の領域は県平均を上回りましたが、「数と計算」「量と測定」「数量関係」の領域については県平均を下回りました。

５　「質問紙に関する調査（生活実態調査）」の結果から

良かった点

- ○　国語の勉強や読書が好きである。
- ○　算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考える。
- ○　友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる。
- ○　将来の夢や目標をもっている。
- ○　友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる。
- ○　朝食を毎日食べ、同じくらいの時刻に寝ている。

改善すべき点

- ○　400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思う。
- ○　友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である。
- ○　自分には、よいところがあると思う。
- ○　普段、1日当たり4時間以上テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしている。
- ○　学校の授業以外に普段、1日当たり2時間以上勉強している。

６　改善に向けての取り組み

国語においては、「国語の勉強」や「読書」が好きな児童が全国を上回りましたが、「友達の前で自分の考えや意見を発表すること」や「自分の考えを書くこと」が全国を下回り、「話す・聞く・書く」という言語活動に苦手意識をもつ児童が多いことが浮かび上がってきました。

今後は、さらに『朝読』を充実させ、『道徳』を中心とした「話し合い活動」や各教科で自分の考えを書いたり発表したりする言語活動も充実させていきたいと考えています。

算数においては、「算数の勉強が好きである」「算数の授業の内容はよく分かる」が全国を下回りましたが、「算数の問題の解き方が分からないときには諦めずにいろいろな方法を考える」が全国を上回り、算数に苦手意識をもっているが、自分の力で問題解決をしようという意欲は高いことが明らかになりました。

今後は、基礎基本の学習を充実させるために、「分かる算数の授業」に心がけ、ティームティーチングなども有効に活用しながら、算数の好きな児童を増やしながら、さらに基礎学力の定着を図っていきたいと思います。

家庭での生活では、「早寝・早起き･朝ご飯」についてきちんとできている児童が全国を上回っていました。家庭学習では、「自分で計画を立てて、学校の授業の予習なども勉強している」児童が全国を上回っていました。自主的な学習習慣が身についている児童が多いことが明らかになりましたが、その反面、毎日１時間以上テレビゲームをしている児童が７割おり、その中の２割の児童が３時間以上ゲームをしていることがわかりました。当然、家庭での勉強時間は少なくなり、全く勉強していない児童も１割以上いることがわかりました。

今後は、中学校も見据えて、良い生活習慣を身につけていただきたいと思います。そのために家庭でテレビゲームのルールを再度確認し、学習のルールをお子さんと話し合って作っていただけるとありがたいと思います。